

環境影響の評価

総合商社である三井物産は、扱う事業もその活動も非常に広範囲にわたっています。これらの事業が環境に与える影響を把握することは当社の責務と考え、すべての事業について環境影響を評価しています。

事業活動の環境影響評価

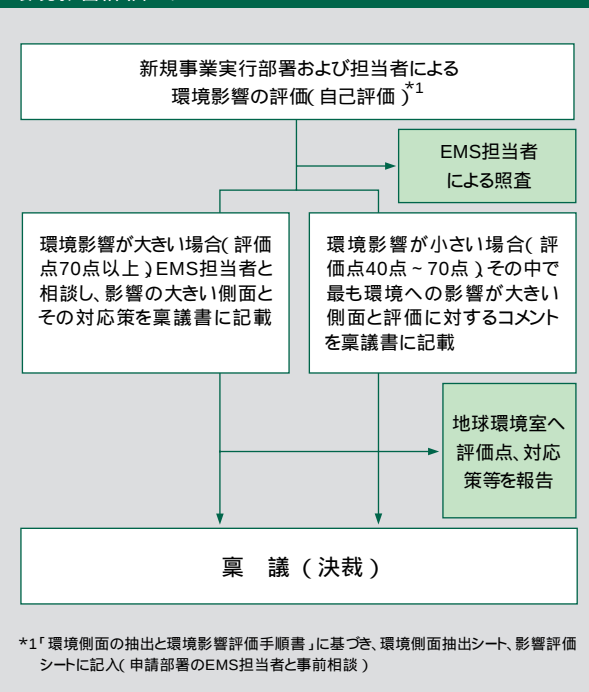
当社では、オフィスにおける環境影響の管理だけでなく、事業活動や関係会社、商品・サービスの輸出入・販売に至るまで、積極的に環境負荷低減に取り組んでいます。

新規事業に対する投資を行う場合には、環境影響を事前に評価します。影響が大きいと判断した場合は解決策を策定させ、その内容を稟議書に記載して申請するシステムをとっています。既存事業については、毎年1回環境影響を評価し、影響が大きいと思われる事業については、管理する手順を定めて特別に管理しています。

さらに、国内外関係会社の約1,000事業所を対象に、詳細な質問表による「関係会社環境検査」を実施し、環境負荷や環境汚染リスクを評価しています。環境リスクが高いと評価した場合は、当社社員がコンサルタントとともに実際に工場に出向いて実査を行い、改善の指導をしています。

商品・サービスについても、新規取り扱い開始にあたって環境影響を評価しています。国内法規はもとより、パーゼル条約などの国際条約、世界銀行などの国際機関のガイドラインを遵守すると同時に、資源の開発・輸入にあたっては、持続可能な発展を基本姿勢に、生態系や地球環境への影響に配慮しています。

環境影響評価のフロー



社有林の保全

当社では、全国56カ所、約3万9,000ヘクタールに及ぶ社有林を保有しています。

森林は、多様な生物を育むだけでなく、生命の源である水の供給や、地球温暖化の原因であるCO²の吸収・固定など、環境保全に大きな役割を果たします。当社の社有林で吸収しているCO²量は、年間15万トン以上*2に相当します。

この社有林を管理するために、社内に専門担当部署を設け、関係会社を通じて森林の維持・育成に努めています。

*2 二酸化炭素固定量(CO²トン換算)年間 = 「年間成長量(樹幹)」×「材容積量」×「炭素換算率」×「樹幹に対する木全体の比率」×「炭素量(Ctン)に対する二酸化炭素量(CO²トン)換算率」